

書けば、書くほど たのしくなる…



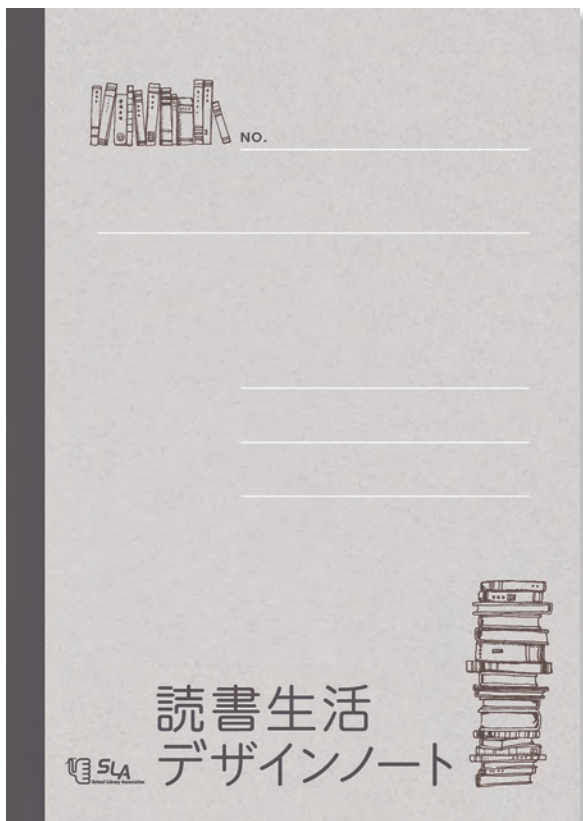
読書生活デザインノート

A5 (148×210) 30枚 (製造元: コクヨ株式会社)

販売価格 **200**円 (税別)

「全国SLAネットストア」(下記リンク先)
または最寄りの書店からご注文いただけます

<https://sla.official.ec/>



【お問い合わせ】

TEL : 03-6284-3722(代) FAX : 03-6284-3725

「読書生活デザインノート」を 児童生徒に、1冊ずつ

「読書生活デザインノート」の書き方・使い方は、全国学校図書館協議会のWebサイトから、児童生徒ひとりひとりにそのまま配布できるプリントが刷り出せます。

<https://www.j-sla.or.jp/books/dokusyo-note-print.pdf>



読書ノートの「書き方・使い方」の指導がすぐできて、かんたん!

▶ 読書歴は、私の歴史



気になる本は、読んでも、読まなくても、読書ノートに記入します。手帳のように、日記のように記録していくことで、自分だけの「読書ノート」ができていきます。卒業しても、続けて書いていけるといいですね。

▶ らくらく図書委員会活動



読書ノートには、読書についての「あれこれ」を書いておくことができます。例えば図書委員会で、読み聞かせ、ブックトークといった読書イベントを企画するときには、この〈読書あれこれ〉を見直せばいいのです。

▶ 読書でコミュニケーション



本を読むと、その感想を誰かと話したくなります。「私もそう思ったよ」と、共感できればうれしいし、「そんな読み方もあるんだ！」という発見は、刺激的。読書はそうした交流により、何倍も楽しくなります。

▶ 国語の授業で



国語の授業では、本の紹介をしたり、読書感想文を書いたり、本を扱うことが多くあります。こうした授業のために、ふだんの読書を「読書ノート」に記述しておくとう便利です。特に〈心に残った言葉や文〉が活躍します。

▶ 視覚化する読書記録



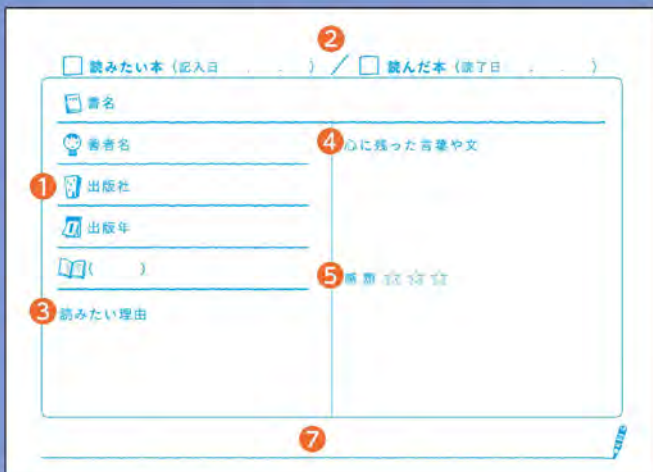
本は、必ず読了日を迎えられるとは限りません。途中で挫折もするし、放置することもあります。じっくり読むときもあれば、さっと読むときもあります。読書ノートはそうした読書も記録することで、自身の読書を自覚できます。

▶ 他教科における読書活動



文学中心になりやすい読書ですが、理科、社会などの教科、総合的な学習の時間、HRなどでの本の利用こそ、歴史、社会科学、自然科学、芸術といった他の分野の読書を広げるチャンスです。あらゆる場面で読書ノートを使いましょう。

ノートの使い方と指導



1 基本の書誌情報

書名
著者名
出版社
出版年
()

図書館や書店で本を調べたり、データベースを検索したりするには、基本の書誌情報が必要です。レポートや論文などを書くときにも、正しい書誌情報の記述が求められます。「読書生活デザインノート」は、この項目をきちんと書かせるので、基本の書誌情報が学べます。

2 読みたい本/読んだ本

読みたい本 (記入日) / 読んだ本 (読了日)

「読書生活デザインノート」には、読みたい本をメモしておくことができます。例えば、新聞や雑誌で気になる本を見つけたら、〈読みたい本〉に✓し、その日付(記入日)と、①の書誌情報、〈読みたい理由〉を書いておきます。本を読み終えたら、〈読んだ本〉に✓し、記念すべき読了日の日付を入れ、感想を書きます。

3 読みたい理由

読みたい理由

〈読みたい本〉があったときは、なぜ興味を持ったのかを書きます。「おもしろそう」といった曖昧な記述には、「どうしてそう思ったのか」を、もうひと言わかるよう指導しましょう。興味を引く書評などは、切り抜いて読書ノートに貼っておくと、今後の読書の参考になります。

4 心に残った言葉や文

心に残った言葉や文

読書をしていくと、大切な情報や、読者の心をつかむ言葉や文に行き当たります。引用は、一字一句間違わないように書き写します。あとで読み返すときのために、引用部分のページを書いておくとう便利です。

5 感想

感想☆☆☆

「おもしろかった」「感動した」といった言葉のみで終わることのないよう、その本ならではの感想を書くよう指導しましょう。星は、おすすめ度の分だけ塗りつぶします。

推薦します！ 読書生活デザインノート

私たちが「自ら本に手を伸ばす子供」の育成を目指すのは、生涯にわたって、必要に応じて本を手に取り、情報を主体的に活用することのできる自立した読み手になってほしいと願うからです。そうした読み手を育てるために、学校においては、一斉読書はもちろんのこと、国語での本の紹介、社会での調べ学習など、各教科等においてもさまざまな工夫された読書活動が行われています。これらの読書活動を個々の子供の中でつなげることが、彼らを自立した読み手に育てるコツです。日常の読書も含め、すべての読書活動を「読書生活デザインノート」に記録していくことで、個々の読書活動は彼らの中でつながりを持ち、読書に主体的に関わる読み手として成長していきます。「読書生活デザインノート」は、すべての読書活動をつなぐ教材なのです。

子供たちが読書ノートについて、「書いていて楽しい」「少し大変だけど自分のためになる」といった実感をもつようにするためには、4つのポイントが考えられます。

- ①最初の指導を丁寧に行うこと。
 - ②読書ノートをいつもそばに置かせること。
 - ③さまざまな読書活動の際に、必ず使用すること。
 - ④定期的に回収し、ひと言でよいので、必ずコメントを加えること。
- 子供たちの豊かな読書を願うすべての人に、「読書生活デザインノート」の活用をお薦めします。



杉本直美

文部科学省国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官。川崎市立中学校教諭を経て現職。著書に、「読書生活をひらく『読書ノート』」（全国学校図書館協議会）ほか。「読書生活デザインノート」を監修。

読書生活デザインノートの書き方例

このページには、読書生活デザインノートの書き方例が複数掲載されています。各ページには、読書した本のタイトル、著者、出版社、読んだ時期、感想、そしてイラストや色塗りなどが施されています。また、先生や友達からのコメントも記載されています。

例として、以下の項目が挙げられます：

- 銀河鉄道のお話
- 世界の地図の下書き
- 博士の愛した取組
- 小川洋子
- ロウマの科学
- ファラデー 三石誠志
- 角川書店

また読めていない本

イラストや色を塗って楽しく

先生や友達のコメント

ノートの使い方と指導

6 読書あれこれ

読書に関することなら何でも書ける、子どもの個性を大切にしたいスペースです。〈心に残った言葉や文〉や〈感想〉の続き、イラストを描いたり、切り抜きやメモを貼ったり自由に使います。「大好きな本ベスト5」「本屋さんに行ってみました」「映画をみて、原作を読みました」「大好きな作家について」など、テーマを決めてまとめて書くこともできます。



7 先生からのメッセージ

子どもが自由に使ってよいのですが、「読書ノート」を提出させて、「おもしろそうだね」「私も読みました」など、先生からのひと言コメントを書いて返すと、子どもの励みになります。

